

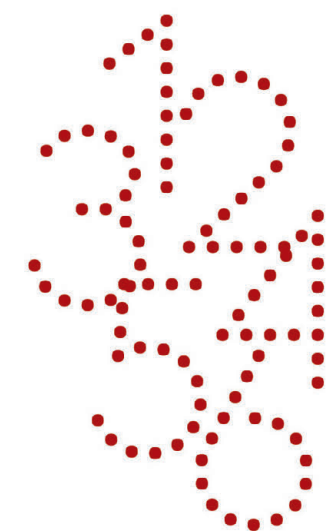


福島県障がい者
芸術文化活動支援センター



はじまりの美術館

2022 年度報告書



福島県障がい者
芸術文化活動支援センター

 はじまりの美術館

2022年度報告書

はじまりの美術館は2014年6月に福島県耶麻郡猪苗代町に開館した小さな美術館です。2019年度より、福島県障がい者芸術文化活動支援センターとしても活動をはじめました。福島県内をはじめ、全国の障がいのある方々が自分らしく表現活動を行えるよう、また障がいのある方の表現活動にかかわる方々と一緒に悩み・考え、より良い方向へ向かえるよう、少しでも力になっていければ幸いです。

2022年度の活動について

はじまりの美術館 館長 岡部兼芳

はじまりの美術館が支援センターとして4年目となる本年度は、様々な面で「足元に目を向ける」1年となったように思います。

美術館としても開館から8年目となり、障がい福祉にとどまらず様々な方に存在を知って頂くようになったこともあってか、多様な分野の方から、様々な相談が寄せられるようにもなりました。そのような流れの中、近年では近隣の自治体や、イベント会社などが主催として行う展示会のキュレーションの依頼や、地域の文化事業の検討会議への参加依頼なども増えていきます。そのような場面でも、障がいのある作家の参加を提案することで、発表の機会に結びつく場面も出てきています。

同様に、今年度は県内の文化施設が加盟する「福島県博物館連絡協議会」の研修担当の方から相談頂いたのを契機に、福島県内の文化施設の職員とともに、障がいのある方のアクセシビリティを考える研修会を実施しました。誰もが文化を享受できる環境づくりにはなにが必要なのか、基本となる「合理的配慮」や「公平」という考え方を学ぶ機会となりました。

鑑賞・発表の機会としては、福島県鏡石町在住の森陽香さんの個展「わたしがつくる森陽香美術館」を開催しました。車椅子ユーザーで、足で描く森さんの個人美術館を、来場者を含む「わたし」たちで実現することへもイメージを広げる企画となりました。あわせて、全盲の美術鑑賞者・白鳥建二さんとの鑑賞ワークショップも実施しています。また、福島県の委託事業として実施している公募展「きになるちまちなか美術館」も3年目となりました。今年度は白河市でお店などを営む人たちに「きになる」作品を選んでいただき、9つの会場で展示を行っています。

さらに今年度は、九州大学の長津結一郎さんを伴走者に迎え、本腰を入れて第三者評価にも取り組みました。これまで取り組んできたロジックモデルの見直しを行いながら、再来年度に迫った開館10周年も念頭に、単年度のセンターとしての事業だけにとどまらないふりかえりの契機ともなりました。

コロナ禍ということで作家調査や事業所訪問はなかなか実施できていませんが、次年度からはまた再開できればと思っています。足元に目を向けつつ、今後も地域の中で果たすべき役割を担っていきたくと考えています。

支援センターの取り組み

1
「相談する」



障がいのある方の表現活動に関するアドバイスや、作品の展示等について相談や情報提供を行います。また著作権等の権利保護に係る専門的な相談にも、弁護士などと連携し対応しています。

2
「研修を受ける」



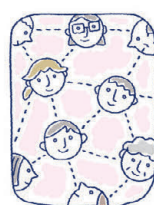
障がいのある方の表現活動を支援するご家族や施設職員、また関心のある方などを対象に、研修会や上映会、トークイベントを開催しています。

3
「発表する・鑑賞する」「ネットワークを広げる」



障がいのある作家の調査を行うとともに、展示会を企画・開催し、表現の多様性と魅力を広く伝えます。また、様々な人が鑑賞する機会や場をつくっています。

4
「ネットワークを広げる」



福島県内、近隣エリアの関係機関や関係者が、情報共有・意見交換を行う場を設け、ネットワーク化を図ります。

5
「情報を知る」



福島県内、ならびに他県の障がいのある方の表現活動にかかわる情報を収集し、SNSなどで発信を行います。また、はじまりの美術館内には、情報スペースを設けています。

6
「ふりかえり・事業評価」



はじまりの美術館および支援センターの取り組みと並行して、ふりかえり、検証、評価を行っています。2022年度は福島県内の福祉事業所を対象としたアンケートを3年ぶりに行いました。

この報告書について

- ・ 2022年度に行った事業を「相談する」「研修を受ける」「発表する・鑑賞する」「ネットワークを広げる」「情報を知る」「ふりかえり・事業評価」のセクションにわけてご紹介しています。
- ・ 相談したいことや気になったことがある際は、お気軽にはじまりの美術館までご連絡ください。

支援センター事業について

1	相談する	5
	・2022年度に寄せられた相談内容から……6	
	・相談の流れ……10	
2	研修をうける	11
	・シエント情報交換会……12	
	・福島県博物館連絡協議会アクセシビリティ研修会（共催）……14	
3	発表する・鑑賞する	15
	・企画展「unico file vol.4 わたしがつくる森陽香美術館」……16	
	・白鳥建二さんと鑑賞しよう……18	
	・きになるちまちなか美術館@白河市……19	
4	ネットワークを広げる	23
	・南東北・北関東ブロック……24	
	・全国の福祉事業所とのネットワーク……26	
5	情報を知る	27
	・はじまりの美術館の情報発信……28	
	・おすすめサイト・書籍……30	
6	ふりかえり・事業評価	31
	・福島県障がい者芸術文化活動支援センターとしての事業評価……32	



そう だん
「相談する」





2022年度に寄せられた相談内容から

はじまりの美術館では、2019年度から表現活動に関する相談を受け付けています。2022年度は67件の相談がありました。主に電話やメールでの相談が多く、Instagramを通じて相談をいただくこともありました。また、コロナ禍の落ち着きもあり、電話で事前予約をいただいたうえで遠方から直接来館いただいた相談もありました。

障がいのある方ご本人からの相談が最も多く、ついで福祉関係者、教育関係者、行政、メディアなどから相談をいただきました。同じ方から異なる内容で継続してご相談をいただくこともありました。

ここでは、よくあるご相談と、2022年度にいただいたご相談のなかからいくつか紹介します。

よくあるご相談

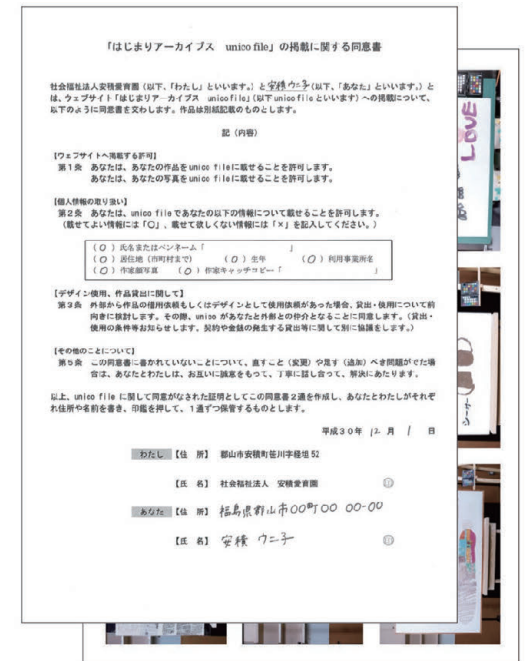
- Q** 障がいのある方向けの公募展情報が知りたいです。
- A** はじまりの美術館でまとめた情報をお渡ししております。各公募展の募集締め切り日に注意してください。また、障がいの有無に関わらず全国では様々な公募展が開催されているので、ぜひ公募展情報サイトなどを見て、気になるものに挑戦してみてください。
- Q** どうすればもっと作品がよくなるかアドバイスがほしいです。
- A** どのように活動をしていきたいか、作者ご自身のことなどもお伺いしながら、作品をみてアドバイスさせていただきます。ぜひ作品や作品を撮影した写真をご持参ください。
- Q** はじまりの美術館で作品を展示したいのですが、どうすれば展示してもらえますか。
- A** はじまりの美術館では例年、福島県主催の公募展である福島県障がい者芸術作品展「きになるちひょうげん」を開催しています。秋頃に作品募集が始まりますので、応募要項をご確認のうえご応募ください。なお、現在のところはじまりの美術館展示室の貸し出しは行っておりません。

2022年度の相談の例

- Q** 公募展にどの作品を応募したらよいかわからないので相談にのってほしいです。
- A** まずは、自分が応募したい・誰かに見てほしいと思う作品を選んでみてください。もし受賞を目指すのであれば、過去にどんな作品が入賞しているか、その公募展がどのような趣旨で開催されているものかなどを調べて、その作品にあう公募展に応募するのが良いと思います。いろいろな観点がありますが、作品サイズの上限が決まっている公募展も多いため、実物審査では、なるべく上限に近い大きな作品を応募したほうが審査員の目にとまりやすいかもしれません。
- Q** はじまりの美術館のアーカイブサイトを見ました。支援センターで作家紹介のウェブページを新しく制作して参考にしたのですが、作品の撮影や掲載の際に、契約書や同意書は作成しましたか？
- A** はじまりの美術館では、同意書を作成しました。まず、口頭で掲載について同意いただけるか確認をとってから、障がいのある方ご本人でもわかりやすいよう、なるべく平易な言葉を使用した同意書のフォーマットをつくり、作者のみさんから同意をいただきました。『どうしようからはじめるアーカイブ』という本の中で、同意書のフォーマットも掲載しているので参考にしてみてください。

後日、ある公募展に入選したとご連絡いただきました。

これからウェブサイトをつくるなかで参考にすることでした。



Q はじめて展示会を開催していますが、宣伝方法がわかりません。宣伝方法を知りたいです。

A 宣伝についてですが、ハガキやチラシなどは作成されていますでしょうか。展示会や展覧会のタイトル、作者名、会場、会場までのアクセス、どんな展覧会なのか記されている広報物をつくることをおすすめします。ハガキやチラシを近隣のギャラリーやカフェなどに置いてもらったりすると広がりがあります。また、展示やイベントの発信をするには、まず基本情報を整理して、SNS やウェブサイトに掲載するなど、見た人がわかりやすい情報発信が必要かと思います。地元の新聞社に展覧会のお知らせをして、取材してもらうのも宣伝になります。展示会のタイトルや開催情報をお知らせいただければ、はじまりの美術館の Twitter でもお知らせすることもできます。

後日、note に展示会の情報更新をされたほか、地元の新聞社に取材されていました。

Q 支援学校の生徒たちと、校外学習ではじまりの美術館に行きたいです。

A 大歓迎です。事前授業も可能ですので、一緒に生徒のみなさんと楽しめる方法を考えましょう。

後日、Zoom で事前学習をしてから、はじまりの美術館で開催していた展覧会「きになるちひょうげん 2022」に来館いただきました。



Q 施設の外壁に壁画を施したいのですが、その段取りやアーティストの紹介などの相談にのってほしいです。地域を盛り上げ、地域にひらかれた事業所にしたいという職員の思いがあり、アートや文化をひとつのツールにしてイベントを行いたいと思っています。

A 目的に合わせて、大きくは3つの方法があると思います。

1. 制作をアーティストに依頼する
2. 壁画を描く人を公募する
3. 壁画を描くワークショップをメインとした取り組みにする

1 の場合、作品の制作依頼なので謝礼と画材などの材料費がかかりますが、希望するイメージに近い形でクオリティの高い壁画ができると思います。2 の場合、材料費に加えて、チラシ制作などの広報費が必要になります。「自由に壁に絵が描ける」ということは一見応募したアーティストにメリットがあるように見えますが、壁画制作は物理的にもアーティストへの負担が大きい場合もあるため、慎重に進めた方が良いでしょう。また、イメージ通りの仕上がりになるとは限らないことも念頭においた方が良いでしょう。3 の場合はアーティストに頼む場合や、ワークショップができるデザイナーやコーディネーターに頼むことも考えられます。外壁は、実際に壁画ができたときにイメージと違うことや、モチーフによっては稚拙な印象になってしまうこともあるので、組織の中でもイメージのすり合わせをしながら、進めていくとよいかもしれません。

後日、新しい形でプロジェクトを始められました。

Q 自分で作ったブローチを販売したいです。

A まずは販売してもらいたいお店に問い合わせしてみましょう。その際に委託販売の手数料が発生する場合があります。条件が合いましたら、期間なども取り決めをして、販売をお願いすることができます。販売に必要な納品書、請求書などの書類作成もはじまりの美術館のスタッフと一緒にすることも可能です。

後日、まずは「きになるちひょうげん 2022」の会期にあわせて、はじまりの美術館で販売を行いました。



相談の流れ

ご相談は、ご来館いただいたの「対面相談」、
Zoomを用いた「オンライン相談」、
メールでの「メール相談」を受付しております。

対面で相談ご希望の方

メールまたはお電話にて相談希望の日時と内容をお知らせください。

日程調整のうえ決定した日時に、はじまりの美術館にご来館ください。

はじまりの美術館オハコカフェにてお話をお伺いいたします。
相談時間は30分～1時間程度になります。

オンラインで相談ご希望の方

メールまたはお電話にて相談希望の日時と内容をお知らせください。

はじまりの美術館がZoomのURLを設定します。指定の日時に、
Zoom入室ください。

Zoom上でお話をお伺いいたします。カメラと音声はONでご参加ください。
相談時間は30分～1時間程度になります。

メールで相談ご希望の方

メールに「お名前」「ご所属やご職業」「相談したい内容」
をご記入のうえ送信してください。

1週間以内を目処にご相談内容に返信させていただきます。相談内容によつては、何度かメールのやりとりを繰り返させていただきます。
※1週間経っても返信がない場合は迷惑メール等に振り分けられている可能性があるため、お電話等でご連絡いただけますと幸いです。

これまでご相談いただいた方 からのご感想

たくさんの気づきがあったり、自分の視野が広がったり、好きなものが増えたり、本当にたくさんの学びがありました。本当はもっとこうしかったのに、と自分自身に足りないことも発見できました。たくさんの発見を、今後の活動に十分に活かしたいと思います。

このような機会をつくって下さり、心より感謝申し上げます。私や母と真剣に向き合ってください、幸甚に存じます。

ご丁寧に教えていただき、ありがとうございます。いただいた情報を元に、色々ご縁を掴みたいと思います。

〇〇展に入賞いたしました。展覧会に自分の作品がならぶこととなり、とてもうれしく思っております。いろいろ相談ののっていただき、感謝しております。これからも制作の手を休まず、日々精進したいと思います。

資格や福島の職場、美術館などについて色々教えて頂きありがとうございます。特に学芸員の必要性や美術館の職業について、インターネットで調べてもあまり出てこなかったのが初めて知ったことばかりで驚きました。また教えて頂いた障害者に関する記事など色々拝見しましたがどれも目からウロコで「無償で相談して大丈夫なのか」と心配したくらいでした…。今回の経験を参考に今後の就活を頑張って行きたいと思います。また相談したいと思った時はよろしくお願いします。また機会がありましたら、より成長した姿で御二方にお会いできますよう、日々精進してまいります。



けんしやう
「研修を受ける」



はじまりの美術館 無料相談窓口

TEL : 0242-62-3454 ※火曜・展示入れ替え期間中休館

Mail : soudan@hajimari-ac.com



cento- シェント - 福祉と表現にまつわる研修会 「シェント情報交換会」

日時	2023年3月28日(火) 14:00~16:00
会場	コミュニティサポートセンター アルペロベッコ (郡山市安積町笹川字関谷田 3-6)
参加者	14名
話題提供者	<p>北畑尚子 (NPO 法人さぽーとセンターぴあ 自立研修所ピーンズ 所長)</p> <p>渡邊瞳子 (NPO 法人ソーシャルデザインワークス ソーシャルスクエア上荒川店 生活支援員)</p> <p>星 尊 (社会福祉法人安積愛育園 地域生活サポートセンターパッソ リーダー)</p> <p>鈴木愛理 (社会福祉法人安積愛育園 地域生活サポートセンターパッソ 支援員)</p>

主に福島県内の障がい者支援施設等で表現活動のサポートに携わっている方、障がいのある方等の表現活動に携わっている方、福祉と表現に興味・関心がある方に向けて、「シェント情報交換会」を開催しました。「シェント」は2020年度と2021年度はコロナ禍の影響でオンライン研修会として全国のみなさんにご参加いただきましたが、今年からは以前からいただいていた「福島県内でネットワークをつくれる場がほしい」というリクエストにお応えして、対面での研修会としました。

前半は、3事業所4名の話者提供から15分ずつお話をいただきました。地域生活サポートセンターパッソの星尊さん・鈴木愛理さんからは「創作活動について」の話から、パッソでの活動の様子について、自立研修所ピーンズの北畑尚子さんからは「製品化について」のお話を中心に多岐にわたる活動を、そしてソーシャルスクエア上荒川店の渡邊瞳子さんからは「地域での活動について」として「みんなでつくる美術館プロジェクト」のお話をいただきました。

後半は、3つのテーブルにわかれて「創作活動」「製品化」「地域での活動」をテーマにワールドカフェ形式でワークショップを行いました。今回は福祉事業所に勤務している方や障がいのある方のご家族やご友人の方の参加が多く、それぞれのテーブルで日頃の悩みや考えていること、お話を聞いて感じたことなどを共有しました。

今回は3つのテーマにわたっての研修会でしたが、実はどのテーマとも横断するキーワードや課題が、いくつもあったように感じます。今後も継続して情報交換や共有の場をつくることができると幸いです。



今回の研修会で 印象に残った言葉や内容を 教えてください。

- 利用者主体に支援していたらスタッフも一緒に楽しめる表現あふれる事業所に…といったお話が心に残りました。大事なことだなとあらためて感じました。
- 情報を取りに行かないと入ってこない
- どんなものでもアートになるのだと思いました。また『利用者と社会をつなぐ』という点で、社会的な壁がなくなれば良いなと思いました。
- みんな(と)いきる、や、利用者さんの熱意により突き動かされ、美術館に繋がったエピソードです。常々、必要のない人間は居ない、と思っている(思いたい)ので、嬉しかったです。



今回の研修会を受けて、 「こんなことをしてみたい」 「こうしてみたい」などの気づきや アイデアがあればご自由にご記入ください。

- SNS以外のアプローチを考えたい
- 支援学校の生徒や保護者にどうやって情報を届けるかも課題だと気づきました。これからどんなことができるのか、まだまだ模索中ですが、新しい視点と刺激を頂きました。
- もっと社会とのつながりを作っていければ良いなと思いました。
- 利用者様のアートが地域でひろまったら、利用者様も達成感があるので、もっと製品化のやり方などがひろまったらいいなと思いました。
- 創作風景、活動の様子を見学し、もっと知りたい、学びたいです。研修会もまたは是非参加したい。福祉や芸術、SNSもたくさんフォローしました。もっと知ることから、はじめます。

感想など

- 初めての参加で、とても緊張しましたが、色々な方の話をきけてよかったです。また、高い壁もあったが、意外と身近なものだと感じました。
- なかなか、他の施設について知ることがないので、よききっかけとなりました。
- 自身の活動の、広報の機会にもなってありがたかったです。
- いずれもっと広く届けられるツールや、双方向、情報の見える化がされるといいですね。
- 情報交換ができてよかったです。





福島県博物館連絡協議会との共催事業
博物館・美術館におけるアクセシビリティ向上にむけての研修会
合理的配慮の視点から障害者への対応を考える

日時	2022年11月25日(金) 13:30~16:00
会場	福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ(福島市曾根田町1-18 MAX ふくしま4階)
対象参加者	福島県博物館協会会員館のスタッフ(学芸、事務、正規、非正規を問わない) 21名
主催 共催	福島県博物館連絡協議会 福島県障がい者芸術文化活動支援センター はじまりの美術館 (厚労省障害者芸術文化活動普及支援事業・福島県補助事業)
企画協力 連携	NPO法人エイブル・アート・ジャパン 文化庁委託事業 令和4年度 障害者等による文化芸術活動推進事業 「~いつでも、だれでも、どこへでも『ミュージアム・アクセス・センター』設立事業」

福島県内のミュージアムスタッフ向けに、博物館・美術館におけるアクセシビリティ向上にむけての研修会を開催いたしました。「合理的配慮の視点から障害者への対応を考える」をテーマに、福島県博物館連絡協議会の事業として、福島県内のミュージアムに所属するスタッフの方を対象に実施されました。またはじまりの美術館は、令和4年度福島県障がい者芸術文化活動支援センター事業として共催・運営のサポートを行いました。

研修会では、ゲストとして、NPO法人エイブル・アート・ジャパン事務局長の柴崎由美子さん、スタッフの平澤咲さん、西田まやさんにお越しいただき、まず「合理的配慮とは？」という研修をしていただきました。障害者差別解消法や障害者による文化芸術活動の推進に関する法律など、法律のお話を入り口に、合理的配慮について学びました。また、平等と公平の違いなどを知ったり、グループワークを通して日常の中での工夫などについて考え合いました。

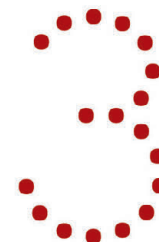
その後、今回は障害のある当事者として、福島県保健福祉部障がい福祉課副主査の鈴木祐花さん、福島県立会津支援学校教諭の根本和徳さんにオブザーバーとしてご参加いただきました。お二人には、遊びに行ったところや日常で、「どんな困りごとがあったか」また「どんな嬉しい工夫があったか」ということをテーマにお話しいただきました。お二人のそれぞれの幼少期からの実体験を伺い、その視点を共有いただきました。

その後、研修会参加者のそれぞれのミュージアムについての工夫や困りごとなどを話し合いました。今回の研修会では、学芸員の方、受付スタッフの方、展示室のスタッフの方、事務スタッフの方など、様々な職種の方にご参加いただき、それぞれの場面で感じていることや気づいたことなどを、模造紙を活用しながら共有しました。また、グループワークの場面ではエイブル・アート・ジャパンのみなさんや、鈴木さん、根本さんにも入っていただき、話を深めました。グループ替えを行いつつ、最後には、「青天井で」課題を解決するアイデアをチームごとに話し合い、発表を行いました。

また、エイブル・アート・ジャパンでは現在「みんなでミュージアム(みんなミ)」という取り組みが行われており、スタッフのみならず利用者の方や様々な方と一緒にミュージアムをつくっていくという視点に刺激を受けた方も多かったようです。

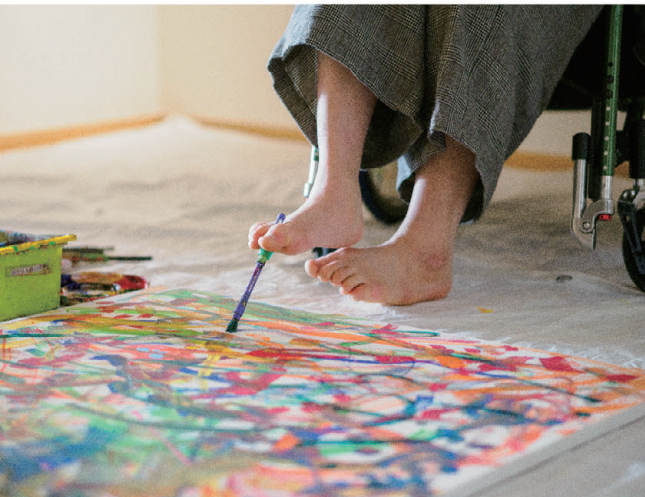
FEEDBACK

- 鈴木さん、根本さんの話はとても参考になった。他館の方の意見を聞けて、同じような悩みがあることもわかった。
- 今回の研修会を通して障害のある人と“ともに”考えていくことの重要性を感じた。
- できるところから少しずつ取り組み、一人でも多くの人が楽しめる施設にしたい。
- これまでも博物館連絡協議会では様々なテーマでの研修が実施されてきたのですが、今回のテーマ設定は初めて。今後も研修を重ねていければ。



は、びょう かん しょう
「発表する・鑑賞する」





企画展
unico file vol.4
わたしがつくる森陽香美術館



日時 2023年2月4日(土)~4月2日(日) 10:00~18:00
※火曜休館、3月21日は祝日のため開館

会場 はじまりの美術館

主催 社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館、unico

まだあまり知られていないが、今後福島県を代表する作家になるだろうという視点で展覧会を企画し、福島県鏡石町出身・在住の森陽香さんの個展を開催いたしました。

森さんは脳性麻痺のため手足にこわばりがあり、移動や外出の際には車椅子を使用します。絵を描くのは主に右足です。森さんは、作家として活動を続けていくこと、そしてたくさんの人に作品を知ってもらえることを願っています。そのようにして活動を続けていった先に、どんな景色が見えたらいいか考えたとき、その一つに森さん個人の名前を冠した美術館が思い浮かびました。それが「森陽香美術館」です。さらに展覧会のタイトルは「わたしがつくる森陽香美術館」としました。森さん本人や、森さんの周囲の方、支援スタッフ、来館者を含めた様々な人が関わり合い、思いを重ねていくことを目指しました。

展覧会のタイトル、構成、チラシデザイン、グッズ制作、広報などについて、森さんやデザイナー、支援スタッフ、美術館スタッフが相談や打ち合わせを重ねながら展覧会をつくっていきました。また、会場では森さんにメッセージやリクエストを書くことができる「コメントカード」を設置したり、足を使って絵を描く体験ができたりし、来館者の方も主体的に参加ができる展覧会となりました。



アンケートコメント

4歳の娘と来館しました。じっと作品を見つめる娘。「家に帰ったら絵を描きたい!!」と刺激になっているようです。また伺います。(30代女性)

「はみだしてもいいんだよ」など、職員の一言がどんなに影響を与えるかということも、今回の森さんの文を読み知りました。(70代女性)

“あかべこ”が好きで、様々なグッズやカードを集めています。森陽香さんのあかべこの愛おしさ、愛らしさ、前向きさに感動しました。ご本人のストーリーを知ると、さらにファンになるのはみなさんそうだと思うのですが、「障がい者」という枠を超え「アート」の世界でさらに注目していただきたいというのが私個人の気持ちです。みなさまのあたたかいサポートでこのご活躍があり、拝見できることにも感謝です。(30代女性)

子どもたちと陽香さんの制作スタイルで絵を描いてみたくなりました。チャレンジします。(60代男性)

体験コーナーを拡大しても良いと思いました。(40代女性)



森陽香 MORI Haruka

1988年福島県鏡石町出身・在住。主な受賞歴に、第2回産経はばたけアート・フェスタ2008 優秀賞(大阪市立美術館館長 篠雅廣氏選)、第4回福島県障がい者芸術作品展「きになるちひょうげん2020」日比野克彦賞、第8回Art to You!東北障がい者芸術全国公募展 福島県知事賞など。主な出展歴に、「アール・ブリュット ジャポネII」(パリ市立アル・サン・ピエール美術館/フランス/2018-2019) 他多数。2022年に『d design travel 福島』表紙に作品採用。

のびやかに画面からはみ出す生き物たち。制作は、週4日通う事業所・パツンで行われている。描かれるモチーフには動物や魚、虫などの生き物が多くみられる。大胆な筆跡の躍動と、生き物たちの愛嬌あふれる表情とがあいまって、作品には不思議な生命力が宿り、今にも動き出しそうである。

白鳥建二さんと鑑賞しよう



茨城県水戸市在住の全盲の美術鑑賞者・白鳥建二さんをナビゲーターに、見える人と見えない人が一緒にはじまりの美術館の企画展を巡り、見たことや感じたことを話しながら鑑賞しました。

1回のプログラムは約2時間。まず白鳥さんから、今回の時間を「どういう時間にするか」の説明や自己紹介が、15分ほど話されました。「作品に関することだったら、何を話してもOK」がルールになり、目の前には何があるかを話したい人から話し始めることを共有しました。その後じっくり1時間以上かけて、3~4点の作品を鑑賞し、最後の30分は振り返りとして、カフェスペースでお茶を飲みながら感じたことなどを話し合いました。

今回の鑑賞会の最年少は、3歳の方でした。子どもの視点ならではの発見があったり、誰かが広げたイメージに対して違う誰かが発想を広げたりと、多様な見え方が展開されていきました。森陽香さんの個展を鑑賞した際には、最初に見た作品があとで見た作品にストーリーやモチーフがつながったりするといった、会話の広がりもありました。さらに、同じ作品を鑑賞しても、別の回では全く違う方向に話やイメージがつながることもありました。

白鳥さんはある回なかで、「この活動は、鑑賞教育ではなく、鑑賞体験。僕のための鑑賞でもなく、役割なしに全員で鑑賞するのがポイント」と話されました。参加者それぞれが感じたことを持ち寄り、体験を共有する場になりました。



企画展「あそビーイング」

日時	2022年9月18日(日) 14:00~16:00
会場	はじまりの美術館
ナビゲーター	白鳥建二
参加者	3名
主催	白鳥建二、社会福祉法人安積愛育園はじまりの美術館



企画展「unico file vol.4 わたしがつくる森陽香美術館」

日時	2023年2月26日(日)、2月27日(月) それぞれ 14:00~16:00
会場	はじまりの美術館
ナビゲーター	白鳥建二
参加者	各回 3~6名、合計 13名
主催	白鳥建二、社会福祉法人安積愛育園はじまりの美術館



きになる ちまちなか美術館@白河市

日時	2023年1月28日(土)~2023年2月26日(日)
会場	福島県白河市内の店舗や施設など
参加店舗	Atelier みず文庫、えきかふえ SIRAKAWA、大堀相馬焼 錨屋窯、髪と台詞、コミュニティ・カフェ EMANON、SHOZO SHIRAKAWA 水辺のコーヒー、白河市立図書館〜りぶらん〜、白河文化交流館コミネス、マイタウン白河
出展作家	青山颯、アスペル NO.28、大友知義、岡崎莉乃愛、奥川崇斗、木須弘、佐藤柊也、佐藤翔、佐藤久、SO、zuoruren、長利浩幸、畑中魁翔、鳩原匡、樋口惺哉、平野義朋、柳沼信也、武藤真悠、ルフィ
主催	社会福祉法人安積愛育園はじまりの美術館

はじまりの美術館では、2017年より福島県から委託を受け、福島県内在住または出身の障がいのある方等を対象とした公募展の企画運営を行っております。今年度開催した第6回福島県障がい者芸術作品展「きになるちひょうげん2022」では、応募総数389組、506点の作品が集まり423点を展示。44日間の会期中に1413名(1日平均32.1名)の方にご来場いただきました。

その関連企画として、お店などを営む人たちに「きになるちひょうげん2022」からご自身のきになる作品を選んでいただき、店舗などに展示いただく「きになるちまちなか美術館@白河市」を実施しました。今回は白河市内の9施設で、19作家22作品を展示させていただきました。様々な方がまちを巡り、人と作品、そして人と人が出会うきっかけとなることを願い、企画しました。



「きになる」まちなか美術館@白河市」に参加した19作家22作品

展示会場となった各施設のコメントも紹介します。



zuoruren 《161 コ》
色彩がきれい。
えきかふえ SHIRAKAWA



青山 颯 《シャインマスカット》
落ち着いた絵である。
えきかふえ SHIRAKAWA



SO 《TIGER COLAR》
迫力がすごい。
マイタウン白河



柳沼信也 《いとしのポニー》
ポニーの瞳に何が映っているのか、ポニーは何を想うのかきになります。
大堀相馬焼 錨屋窯



長利浩幸 《ぼくのあたまのなかのせかい (ロボット、トラック、おうち、デンシレンジ、ひと、バズーカ赤)》《ぼくのあたまのなかのせかい (ロボット、テーブル、ビデオカメラ、カメラ、ひと、バズーカ青)》



細中颯翔 《目玉焼きとフルーツで始まるボクの日》
ひとめぼれです！色づかみや色面構成など全てが“カッコいい！”
Atelier みず文庫



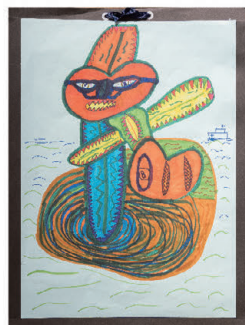
zuoruren 《ぼちゃん》
とにかく大きい！そして緻密！一瞬の切り取り方に脱帽です。
白河市立図書館〜りぶらん〜



武藤真悠 《ドライブ時間のいろ》
似た構図でありながら、いろいろな色が使われていることで時間帯や空間の広がりを感じられます。
白河市立図書館〜りぶらん〜



zuoruren 《広がる》
色彩がきれい。
マイタウン白河



大友知義 《がんばってかきました》
線や色に力強さを感じました。細部までじっくり見たい作品です。
白河市立図書館〜りぶらん〜



平野義朋 《ブロッコリー》
おいしそうで、みていると気持ちが良い。ブロッコリーの頭のポツポツの表現がお気に入りです。
Atelier みず文庫



佐藤久 《ひさし》
ばらばらのようで、まとまっているというが。
髪と台詞



樋口健哉 《ぼくのすきなけしき》
ぼくもすきなけしきです。
SHOZO SHIRAKAWA 水辺のコーヒー



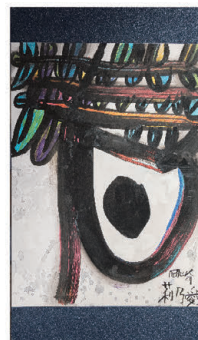
ルフィ 《しまうま》
しましま模様のインパクト！見る角度で色んな動物に見えそうです。
SHOZO SHIRAKAWA 水辺のコーヒー



アスペル No.28 《ロールシャッハ! ?》
《みんなでロールシャッハ! ?》

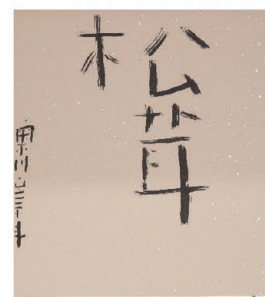
まずタイトルからきになる！タイトルに「! ?」という記号が入ってすぐ勢いを感じ、「ロールシャッハ」という名前も不思議な響きで、「! ?」と組み合わせられることで、よりワクワクします。みんなは何に見えるのか、いざ自分が見たとき何に見えるのか、そしてアスペル NO.28 さんがみんなの見たものを見てどう思うのかもきになって、ずっと見ていられます。

コミュニティ・カフェ EMANON



岡崎莉乃愛 《若葉の季節がのぞいている》
力強い黒の線から、描いたときの様子が目に浮かんで目を引きまします。「のぞいている」というタイトルの通り、何かの目がこちらをのぞいていて、これは何の目なのかきになります。動物なのか、それとも太陽の光を表しているのか、それとも…と、きになり続ける絵です。

コミュニティ・カフェ EMANON



奥川崇斗 《松茸》
「松茸」って良いですね。ふふふってなります。
髪と台詞



佐藤翔 《オムレツとレタス》
ただただおいしそうな一皿。
SHOZO SHIRAKAWA 水辺のコーヒー



佐藤稔也 《ブラキオサウルス》
優しい瞳で何を見ているの？
白河文化交流館コミネス



鳩原 匡 《ガゼル》
仲良くお座りして何をしているの？
白河文化交流館コミネス



木須 弘 《夕日に乱雲》
赤と黒の対比と不安定さがよく表現されている。
白河文化交流館コミネス

展示会場のみなさん

白河市内の店舗や施設のみなさんから、作品を展示したい方を募集しました。
また、コミュニティ・カフェ EMANON の青砥さんよりご紹介・仲介いただきました。



Atelier みず文庫
(アトリエ・ギャラリー)
—— 展示作家 ——
畑中魁翔、平野義朋



えきかふえ SHIRAKAWA
(飲食店)
—— 展示作家 ——
青山颯、zuoruren



大堀相馬焼 錨屋窯
(陶器ギャラリー)
—— 展示作家 ——
長利浩幸、柳沼信也



髪と台詞
(飲食店)
—— 展示作家 ——
奥川崇斗、佐藤久



コミュニティ・カフェ EMANON
(飲食店・コミュニティスペース)
—— 展示作家 ——
アスペル No.28、岡崎莉乃愛



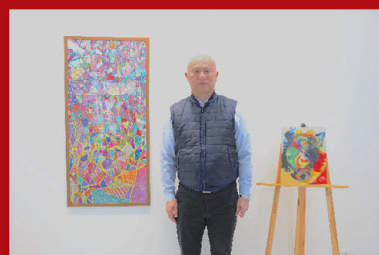
SHOZO SHIRAKAWA 水辺のコーヒー
(飲食店)
—— 展示作家 ——
木須弘、佐藤翔、
樋口惺哉、ルフィ



白河市立図書館〜りぶらん〜
(図書館)
—— 展示作家 ——
大友知義、zuoruren、武藤真悠



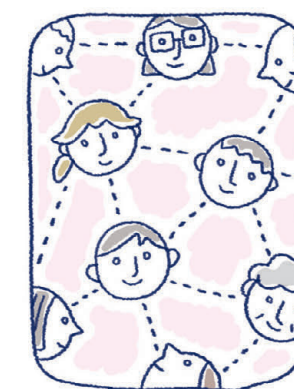
白河文化交流館コミネス
(文化施設)
—— 展示作家 ——
木須弘、佐藤柊也、鳩原匡



マイタウン白河
(市民交流センター)
—— 展示作家 ——
SO、zuoruren



「ネットワークを^{ひろ}広げる」



南東北・北関東ブロック

はじまりの美術館は福島県の障がい者支援芸術文化活動支援センターとして活動しています。厚生労働省では全国の各都道府県に1ヶ所ずつ支援センターの設置を目指しており、2022年度は40の自治体でそれぞれのセンターが活動しています。また全国の連携事務局のほかに、国内を7つのブロックにわけ、ブロックごとに「広域センター」が設置されています。福島県は「南東北・北関東ブロック」（宮城、山形、福島、栃木、茨城、群馬）に含まれ、宮城県のNPO法人エイブル・アート・ジャパンが広域センターを担っています。

今年度は、所属自治体の担当者も交えてブロック内で共同評価を学ぶオンライン研修を行ったり、支援センター未設置県である茨城県や群馬県で、シンポジウムやワークショップなどが開催されました。また2月には、ブロック内の各支援センターが仙台市に集まり、研究発表会としてそれぞれの団体の活動報告を行いました。各支援センターのメンバーもコロナ禍でオンラインの会議が続いたので、実際に会ってお互いの悩みなどを含めて相談し合う貴重な機会となりました。

福島県内でも福島県博物館連絡協議会と共催した文化施設へのアクセシビリティを考える研修会や、これまでオンラインで開催してきた研修会シエントを情報交換会というリアルな場で実施し、表現活動に関心がある方同士のネットワークを広げる場にもなりました。少しずつ広がっていくネットワークを今後の活動に活かしていきたいと思います。

[南東北・北関東ブロック]

宮城県、山形県、福島県、
栃木県、茨城県、群馬県

広域センター

宮城県・山形県・福島県・茨城県・栃木県・群馬県
南東北・北関東ブロック広域センター
実施：NPO法人エイブル・アート・ジャパン 東北事務局

山形県 支援センター

やまがたアートサポートセンターら・ら・ら
実施：社会福祉法人愛泉会 ぎゃらりーら・ら・ら

宮城県 支援センター

障害者芸術活動支援センター@宮城（愛称：SOUP）
実施：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

福島県 支援センター

はじまりの美術館
実施：社会福祉法人安積愛育園

栃木県 支援センター

とちぎアートサポートセンター TAM（タム）
実施：認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館

群馬県（センター未設置）

ぐんま障害者芸術文化活動
支援センター準備室

茨城県（センター未設置）

いばらき障害者芸術文化活動支援センター準備室

第2回福祉とアートのオンラインシンポジウム

いばらきで、いま起きている - Happening Now in Ibaraki -

日時 2022年12月10日（土）14:00-16:30

会場 YouTube 配信、Zoom 配信、茨城県内で上映

登壇者 かとうさとこ（あたりえず〜む）、岩田祐佳梨（NPO 法人チア・アート）

ゲスト 小林竜也（はじまりの美術館）

主催 南東北・北関東広域支援センター（NPO 法人エイブル・アート・ジャパン）
いばふく（いばらき中央福祉専門学校）、ROKUROKURIN 合同会社



いばらき障害者芸術文化活動支援センター準備室では、「福祉」と「アート」をキーワードに、継続的な学びの場やフラットなネットワークをつくっています。今回のシンポジウムでは、茨城県内でアートを切り口に活動を展開する2団体に加え、はじまりの美術館がゲストとして参加しました。

東北・北関東ブロック 障害者芸術文化活動 支援センター研究発表会

日時 2023年2月11日（土）13:00~18:00

会場 せんだいメディアテーク1階オープンスクエア（宮城県）

登壇者 小林竜也（はじまりの美術館）、五味潤仁美（とちぎアートサポートセンター TAM）、武田和恵（やまがたアートサポートセンターら・ら・ら）、小堀幸子・ミヤタユキ（いばらき障害者芸術文化活動支援センター準備室）、多胡宏・野村裕子（ぐんま障害者芸術文化活動支援センター準備室）、高橋梨佳（障害者芸術活動支援センター@宮城/SOUP）

全体進行 柴崎由美子（障害者芸術活動支援センター@宮城/SOUP）

主催 NPO 法人エイブル・アート・ジャパン



障害のある人がそれぞれの地域で文化芸術を楽しみ、活動が行えるよう、都道府県ごとに「障害者芸術文化活動支援センター」が設置されています。「第5回きいて、みて、しって、見本市。」のイベントの一環で、南東北・北関東ブロック（宮城、山形、福島、茨城、栃木、群馬）の支援センター※が会場に集結し、各地域の取り組みを紹介しました。

※支援センター準備室も含む

南東北・北関東ブロック
障害者芸術文化活動支援センター
研究発表会



全国の福祉事業所とのネットワーク

はじまりの美術館では、全国で先駆的な活動を行う事業所やアトリエなどを訪問し、ネットワークを広げています。そうした成果は、展覧会事業や研修会、イベントなどの形で紹介し、福島県内の方々へ知っていただく機会をつくっています。訪問先では制作の様子を拝見したり、意見交換を行ったりしました。

ぬかつくるとこ

(岡山県早島町)



「ぬかつくるとこ」は生活のケアを柱として、アートを活用した自分らしい生活をおくることのできる福祉事業所です。今回の訪問では、生活介護事業所ぬかつくるとこ、放課後等デイサービスアトリエぬかごっこを見学させていただきました。



2022年4月16日から7月3日の期間に開催したはじまりの美術館企画展「日常をととのえる」では、ぬかつくるとことして、作品《ナントナティックウエイトリフティング》を出展いただきました。会期中、ぬかつくるとこや、はじまりの美術館、全国の福祉事業所等をつないで、「ナントナティックオンラインウエイトリフティング大会」も開催しました。

やまなみ工房

(滋賀県甲賀市)



「やまなみ工房」は、1986年に滋賀県甲賀市に開設されたアートセンター&福祉施設です。開設当初3名だった利用者の方は現在90名ほどいらっしゃり、一人一人の「これをすることが幸せである」を大切に活動をされています。アトリエをはじめ、工房内にできたカフェデベッソなどを見学させていただきました。



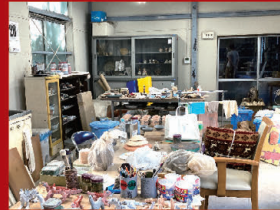
はじまりの美術館企画展「日常をととのえる」では、鶴飼結一朗さんの絵画作品と、制作風景や日常の様子動画をお借りし、展示しました。また、はじまりの美術館内ショップにて、やまなみ工房のオリジナルグッズや新刊なども販売させていただきました。

藤花荘

(愛知県岡崎市)



「藤花荘」は社会福祉法人愛知玉葉会が1958年8月に設置した、障害者支援施設です。1990年、1992年に全面改築され、入所定員は90名です。主に絵画陶芸班とクリーン・エコ班で創作活動が行われています。絵画陶芸班のメンバーが成形と絵付けをした陶芸の製品は、愛知県内外で委託販売やマルシェなどで販売されています。今回は、たくさん作品がならぶ、アトリエの様子を見学させていただきました。



2022年7月30日から10月2日まで開催したはじまりの美術館企画展「あそびーイグ」にて、安藤昇さんに出展いただきました。展覧会会期中には、安藤さんの陶芸作品の販売もさせていただきました。



じょうほう
「情報を知る」



はじまりの美術館の情報発信



はじまりの美術館 SNS

はじまりの美術館のSNSでは様々な情報発信を行っています。ぜひフォローしてみてください。公募展の情報を知りたい方は、Twitterで「#福島県障がい者芸術文化活動支援センター」と検索してみてください。



はじまりの美術館の活動やお知らせを発信しています。



はじまりの美術館の活動や日々のできごとを発信しています。



はじまりの美術館の活動や来場者の感想を発信しています。



#福島県障がい者芸術文化活動支援センター
はじまりの美術館に届いた公募展情報などを発信しています。



展覧会や研究会などのお知らせや、読み物を発信しています。



はじまりの美術館でのオンライントークイベントなどを公開しています。

はじまりの美術館内情報コーナー

はじまりの美術館内にあるオハコカフェには、情報コーナーがあります。「福島県内の展覧会の情報」「全国の展覧会の情報」「障がいのある方の表現活動に関する情報」「作品募集に関する情報」など、各地から集った様々なチラシやDM（ハガキ）などを、わかりやすく配架しています。置いてあるチラシはその時々で更新されていますので、自由に見たり持ち帰ったりできます。オハコカフェには無料で入ることができ、別料金で、コーヒーやジュースなどのドリンクを飲んで、ゆったりと過ごすこともできます。

また、はじまりの美術館以外にも、文化施設やカフェなどには情報コーナーやお知らせコーナーがあります。施設によって置いてあるチラシも異なり、近隣の知らなかった情報に出会えることもあります。お出かけの際には情報コーナーをチェックすることをおすすめです。



さがす・であう はじまりアーカイブス

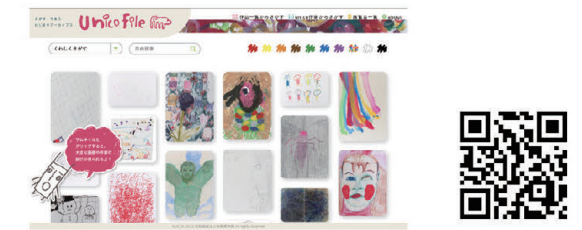
はじまりの美術館では、2つのアーカイブサイトの運営を行っております。日本財団の助成をうけて2018年から運用を開始しました。2018年3月から「unico file」の公開を始め、2019年8月からは「fukushima file」を公開し、現在も支援センター事業の一環として更新を続けています。サイトを訪れた方が、まだ知らない作者や作品に出会い、日常を楽しくしたり、何かを表現してみようと思ったり、ここから何かはじまることを願っております。

fukushima file



はじまりアーカイブス「fukushima file（ふくしまファイル）」は、福島県内で、なんだかきになる表現をしている障がいのある方のことや、その表現や作品を記録・保存し、公開しているデジタルアーカイブサイトです。

unico file



はじまりアーカイブス「unico file（ウーニコファイル）」は、社会福祉法人安積愛育園 unico の活動から生まれた作品のデジタルアーカイブサイトです。このサイトでは、事業所の中で日々うまれる作品から、現場で支援を行うスタッフが「誰かに伝えたい / 残したい」と思った作品を記録・保存・整理しました。

おすすめサイト・書籍

この報告書を手にとった方に、次にご覧いただきたいサイトをご紹介します。

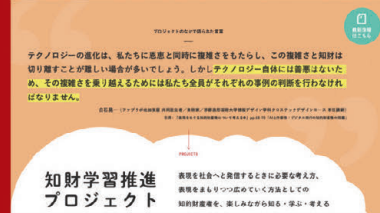
厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業

運営：障害者芸術文化活動普及支援事業連携事務局
<https://arts.mhlw.go.jp/>



知財学習推進プロジェクト

運営：一般財団法人たんぼの家
<https://chizai.goodjobcenter.com/>



DIVERSITY IN THE ARTS TODAY

運営：一般財団法人日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS
<https://www.diversity-in-the-arts.jp/>



福祉をたずねるクリエイティブマガジン「こここ」

運営：株式会社マガジンハウス
<https://co-coco.jp/>



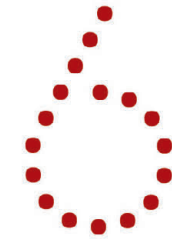
※情報は 2023 年 3 月時点のものです

「どうしよう」からはじめるアーカイブ - 作品を記録し、伝える方法 -

<https://fukushima.hajimari-archives.com/book>
 監修：須之内元洋
 発行：みずのき美術館+鞆の津ミュージアム+はじまりの美術館



障害者支援の現場で日々生み出される表現の数々を「どのようにアーカイブしたらいいだろう」という問いからこの本は生まれました。作品の整理や管理の方法、初級編と上級編の撮影方法、ウェブサイトのつくりかたなど、デジタルアーカイブの一連の流れをイラストや写真とともに紹介。札幌市立大学デザイン学部講師・須之内元洋氏の監修により、技術的な内容にも触れた1冊です。



「ふりかえり・事業評価」 じ ぎょう ひょう か





2022年度、はじまりの美術館では長津結一郎さん（九州大学大学院芸術工学研究院准教授）に伴走いただきながら、じっくりとふりかえりと事業評価を行いました。事業評価とは、「事業の成果目標を明らかにし、成果につながる活動を行っていたかを大切に、事業が生み出したものに対して価値を付与することを目指しました。

これまででもスタッフで相談しながら、いわゆる「ロジックモデル」という事業評価を試みていましたが、振り返りとしてうまく機能させることができているのか判然としない状況が続いておりました。福島県障がい者芸術文化支援センターとして行っている活動、そして、はじまりの美術館として行っている様々な活動をふりかえりながら、評価を継続しています。はじまりの美術館の今後の活動に活かしたり、みなさんの活動に活かしていただいたり、様々な活用ができればと考えています。

長津さんはアーツマネジメント、文化政策、障害学、ワークショップなどをご専門にされており、これまでトークイベントに参加いただいたり、研修会「シエント」で講師をしていただいたりしていました。事業評価のプロセスでは、はじまりの美術館が現在行っている活動を思いっ限り書き出したり、それらを「何のためにやっているのか」を言葉にしていきました。長津さんと一緒に項目ごとに整理し、法人目標、最終目標、中間目標と結びつけて、やっていること、目指していることの全体像が明らかになりました。

この報告書では、美術館全体の事業評価の中から、福島県障がい者芸術文化支援センターとしての事業評価に関わる部分にフォーカスを当ててご紹介します。



表の見方

次ページに掲載している表は、厚生労働省が発行している「障害者芸術文化活動普及支援事業評価ガイド—より良い協働と事業成果を高めるためのヒント集—」に掲載してある「障害者芸術文化活動普及支援事業支援センター活動のコツ（効果的援助要素）チェックリスト」をもとにしています。全国各地に設置されているセンターの活動がより良くなるためのコツが書かれたこのガイドでは、自分たちの活動がうまく進んでいるかを自己点検できるシートが掲載されています。この内容をもとにして、自分たちの活動の自己分析を試みました。自己評価を採点する際には、チェックリストに記載されているレーティング（評点）基準を参考にしました。

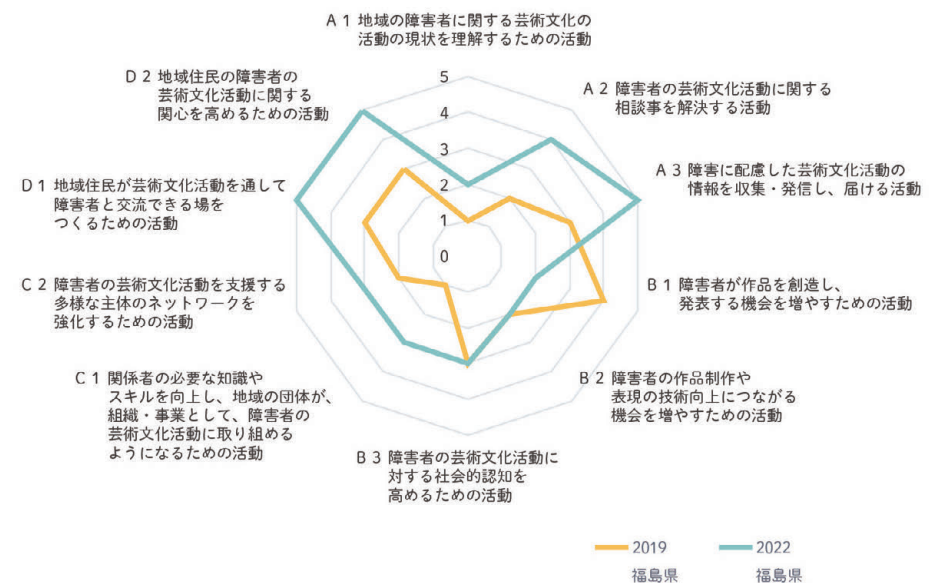
細かなチェックリストの内容や評点の仕方は、ウェブサイトにも掲載されているのでご覧ください。
<https://arts.mhlw.go.jp/wp-content/uploads/2021/07/c3f4d37f7aefcc2046f3da4aa5ea1929.pdf>
 (60ページ以降)



障害者芸術文化活動普及支援事業
 支援センター活動のコツ（効果的援助要素）チェックリスト評点（2022年度）

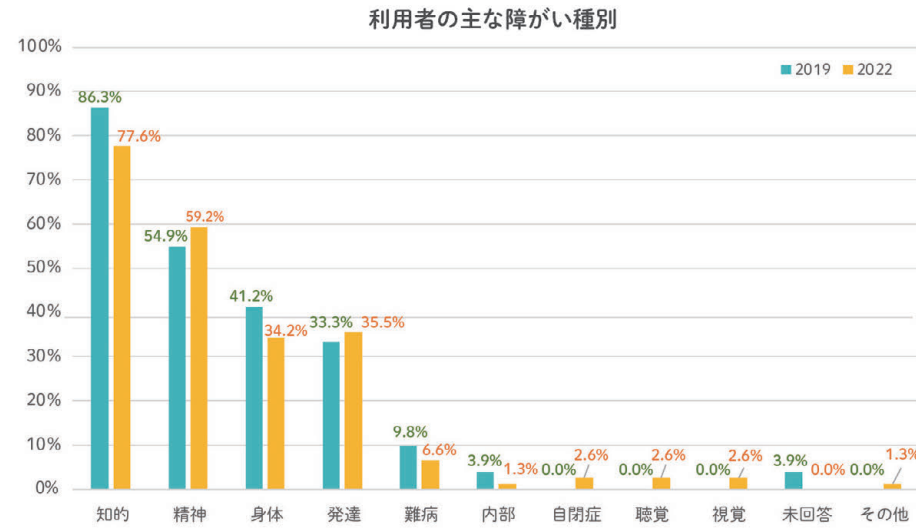
支援	活動1	分類	活動2	2019 福島県	2022 福島県	相談する	研修を受ける	鑑賞する・発表する	ネットワークを広げる	情報を 知る
テ ー マ A	より多くの障害者が芸術文化活動に取り組めるための支援	A 1	地域の障害者に関する芸術文化の活動の現状を理解するための活動	1	2				○	○
		A 2	障害者の芸術文化活動に関する相談事を解決するための活動	2	4	○				
		A 3	障害者に配慮した芸術文化活動の情報を収集・発信し、届ける活動	3	5					○
テ ー マ B	障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会を増やすための支援	B 1	障害者が作品を創造し、発表する機会を増やすための活動	4	2			○		
		B 2	障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会を増やすための活動	2	2	○		○		○
		B 3	障がいの芸術文化活動に対する社会的認知を高めるための活動	3	3			○		○
テ ー マ C	障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（以設等の関係者が、質の高い活動を行うために、必要な知識やスキル等を身につける活動	C 1	関係者の必要な知識やスキルを向上し、地域の団体が、組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになるための活動	1	3	○	○	○		
		C 2	障害者の芸術文化活動を支援する多様な主体のネットワークを強化するための活動	2	3		○	○	○	
テ ー マ D	地域に障害者の芸術文化活動を応援する人を増やすための取り組み	D 1	地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できる場をつくるための活動	3	5			○		
		D 2	地域住民の障害者の芸術文化活動に関する関心を高めるための活動	3	5			○		○
				50点中	24	34				

支援センター活動のコツ チェックリスト 評点

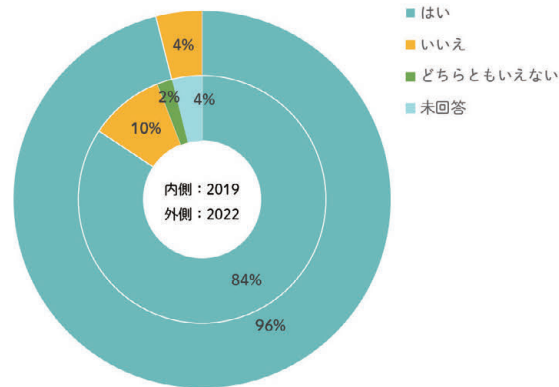


福島県における障がい者の芸術文化活動状況のアンケート結果

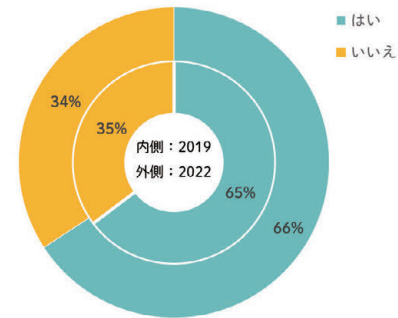
はじまりの美術館が障がい者芸術文化活動支援センターとして活動を開始してから4年目。福島県内の福祉事業所に対して芸術文化活動状況について、初年度（2019年度）に実施した項目でのアンケート調査を行い、比較を試みました。この活動は、チェックリストのA1「地域の障害者に関する芸術文化の活動の現状を理解するための活動」に位置付けられます。2019年度は331ヶ所へアンケートを依頼し、51ヶ所から回答をいただき2022年度は630ヶ所へアンケートを依頼し、76ヶ所から回答をいただきました。（アンケート回答率12%）※障がいのある作者個人からの回答もあり。



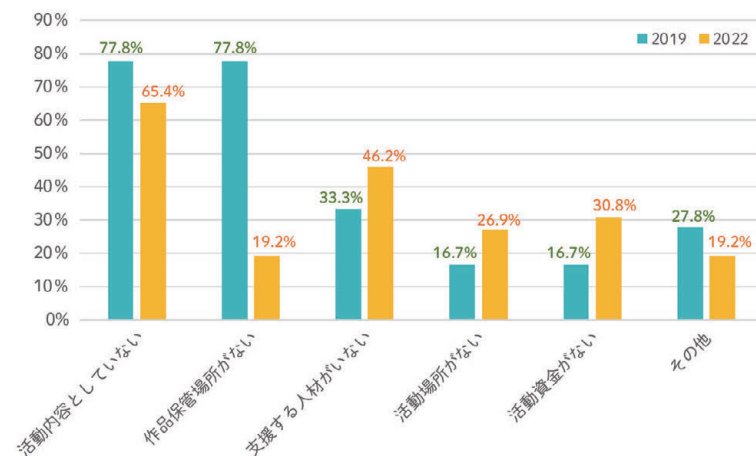
Q1 障がい者の芸術文化活動について関心がありますか？



Q2 あなたの施設では障がい者の芸術文化活動を行っていますか？



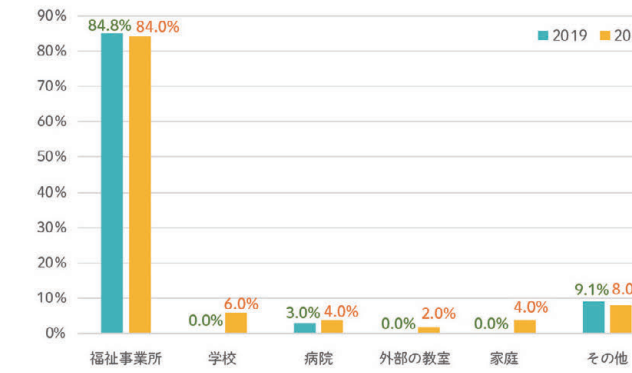
Q2-2 行っていない理由をご回答ください (Q2で「いいえ」と回答した事業所)



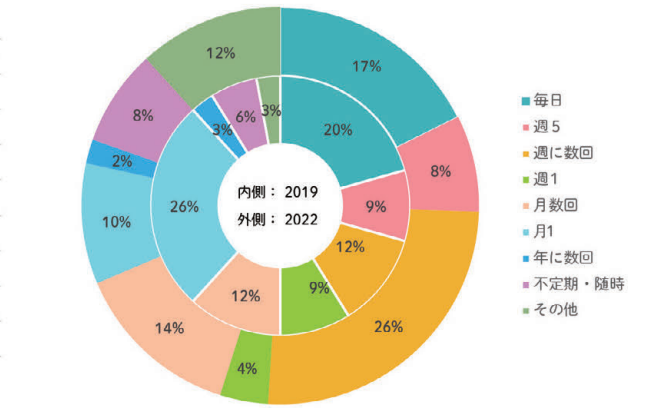
*2022年の「その他」の回答:「複数の老人施設です。障がい者の施設ではないため」「隣接している精神科デイケアでのプログラム実施で行っている」「手先を使った活動(工作・お絵描き・塗り絵)は行っている」「小さい児童が多いため」「限られた時間、色々な障がいに対応した内容の提供の調和の大変さ」

Q3 現在はどのような芸術文化活動をしていますか？

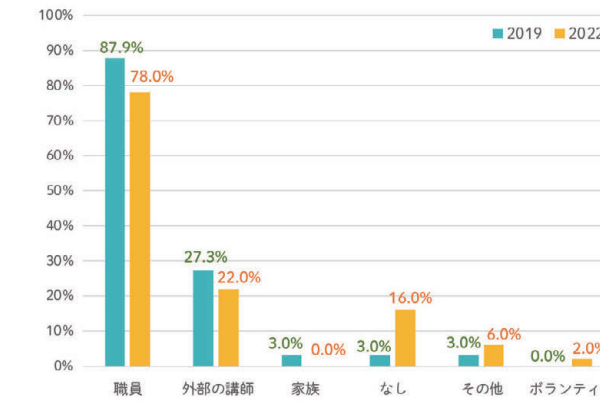
Q3-1 活動場所について



Q3-2 活動時間について

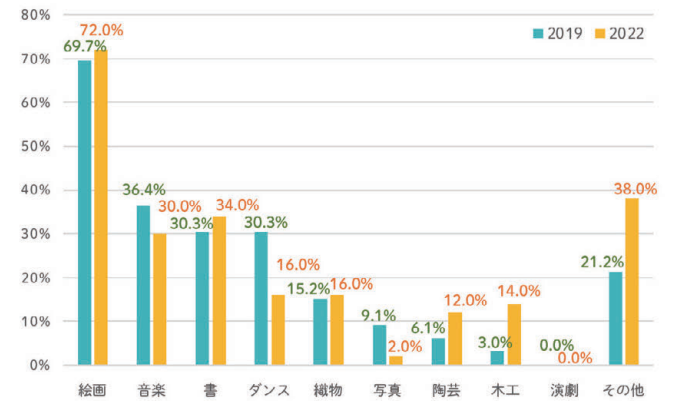


Q3-3 指導者について



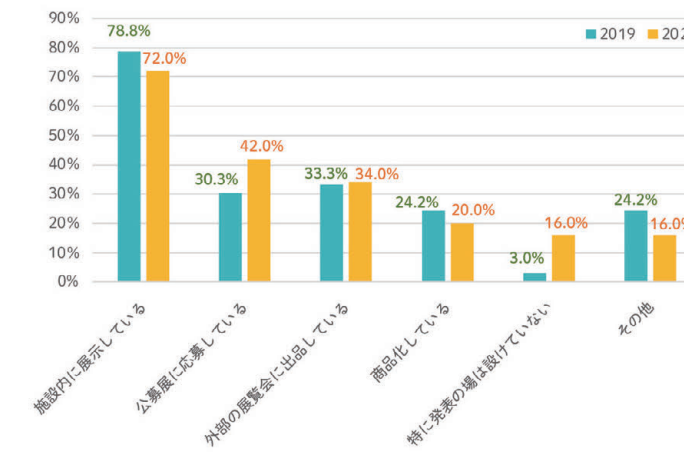
*2022年の「その他」の内訳:「趣味で制作しています」「指導まではいかないが作業活動の一環として職員が土台や流れをつくり手伝っている状況です」「コロナ禍前は外部の講師に協力をお願いしていた」

Q3-4 活動内容について



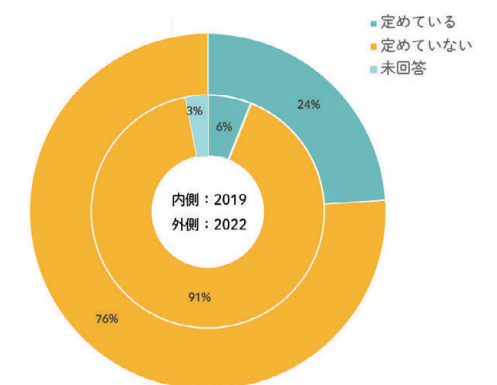
*2022年の「その他」の内訳:「染め物」「カラーセラピー」「デジタルイラスト」「和太鼓」「模写、刺繍」「PPバンド作品、紙漉き作品」「刺し子」「ビーズ作品制作等」「お花紙、折り紙などを使った作品、詩や俳句など」「フラワーアレンジメントなど」「季節の壁面飾り、折り紙」「造形」「小中高各学部の教育家庭、年間計画により異なります」「壁画」「工作」「手指訓練の一環として」「手芸」「イラスト、アイロンビーズ」

Q4 作品はどのような場で発表していますか？

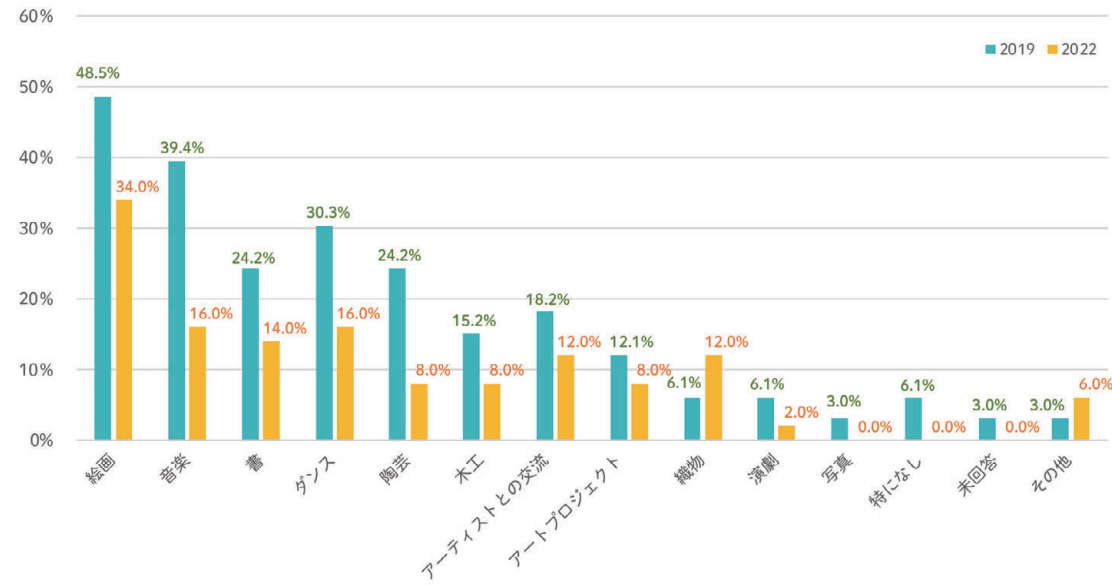


*2022年の「その他」の内訳:「施設内活動で今後YouTube用動画を発表する予定」「町内の展示施設」「施設イベントでの展示」「年に一度開催する事業所主催の音楽会」「イベントへの出演」「市の障がい者作品展や作業療法作品展に出品しています」「作品展を開催」「町の文化祭で展示」

Q5 作品の著作権等の帰属、出展、販売、二次利用等を行う場合の取り扱いを定めていますか？

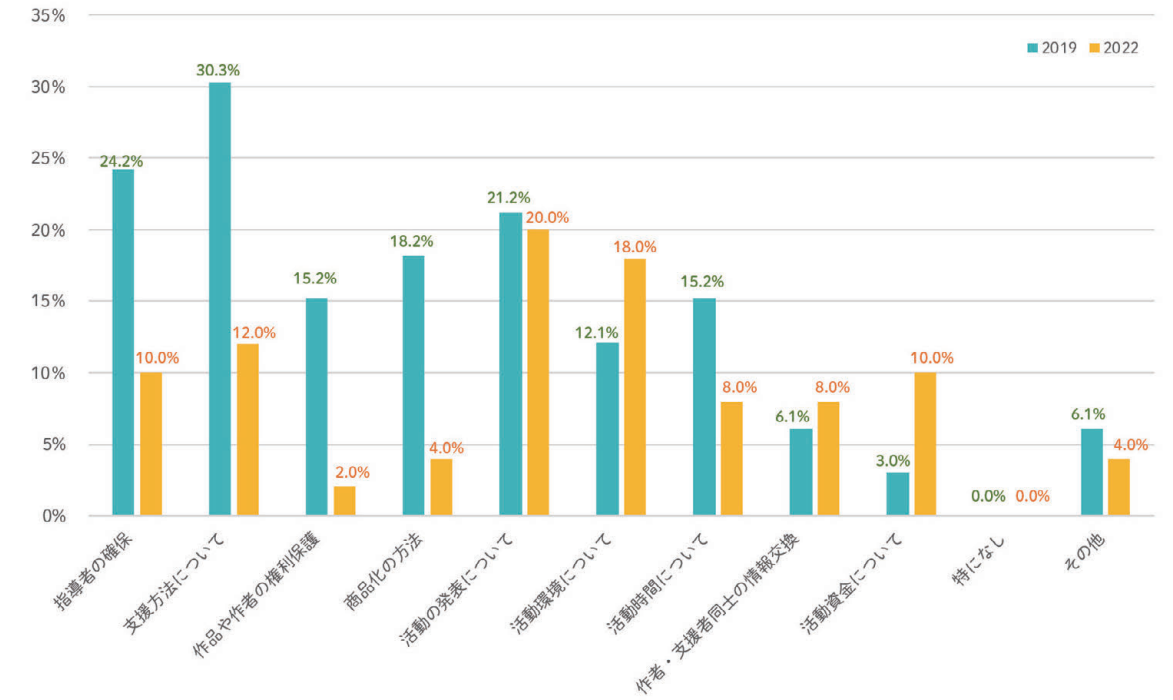


Q6-1 今後どのような芸術文化活動を行ってみたいですか？（現在芸術文化活動をしている方、複数回答）



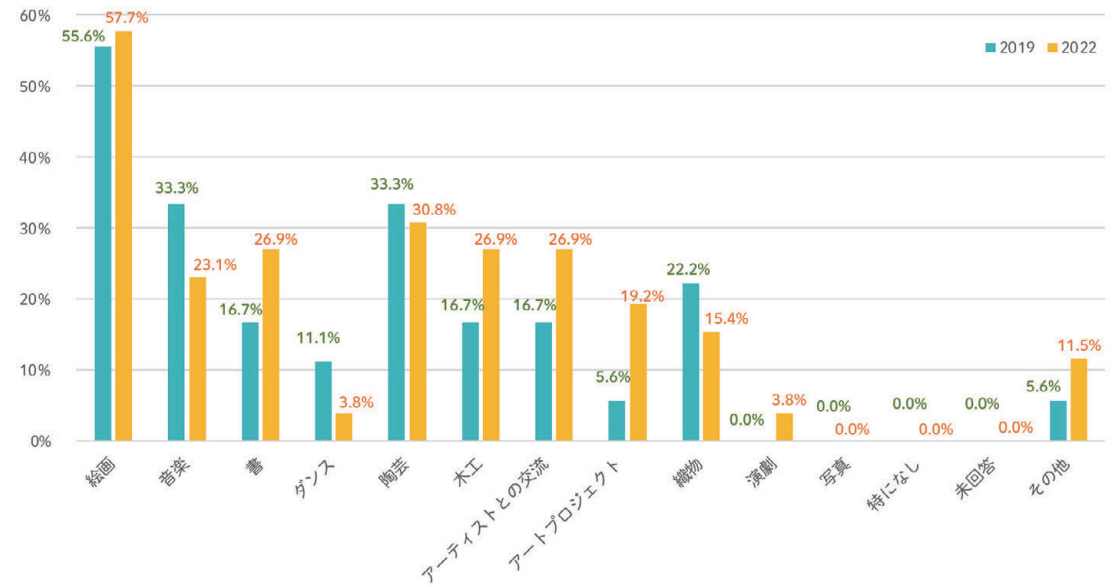
*2022年の「その他」の内訳：「芸術文化活動の見学」「身近な素材での創作」「重度の身体障がい(頸髄損傷の為の四肢麻痺、ヘルパーさんによる車椅子移乗)なのでパソコンに向かうのみです」「子どもたちが興味関心を広げたり意欲が高まるものを見つけたりできるものをどんどん行ってみたい」「貼り絵」「工芸」

Q7-1 芸術文化活動において、現在の課題や必要としていることがあれば教えてください（現在芸術文化活動をしている方、複数回答）



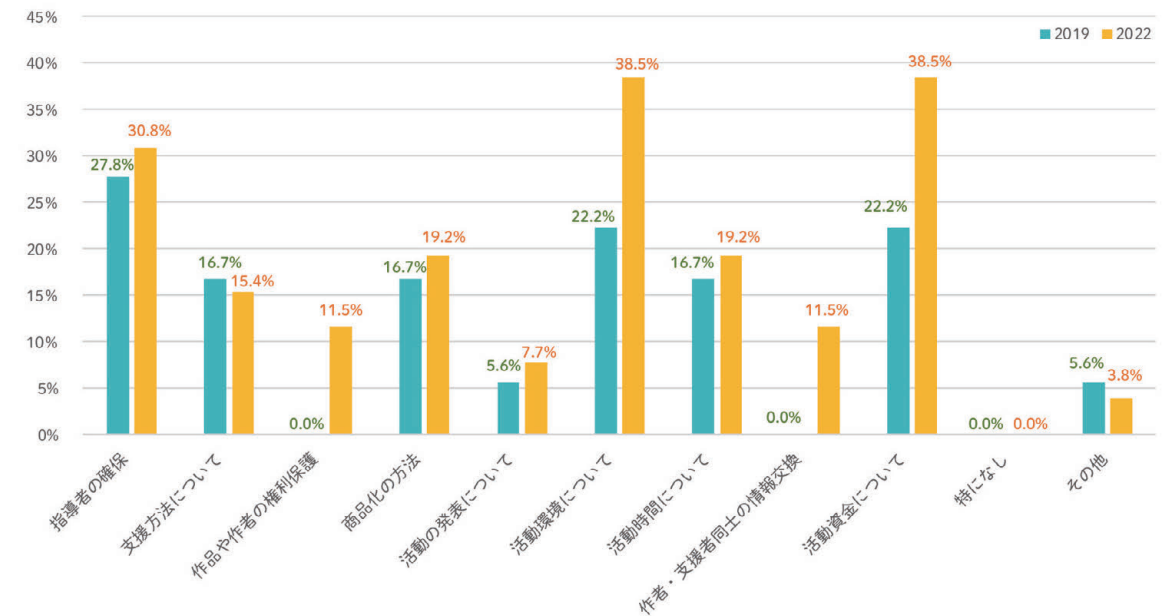
*2022年の「その他」の内訳：「感染症対策に努めながらなど活動に制限がある」

Q6-2 今後どのような芸術文化活動を行ってみたいですか？（現在芸術文化活動をしていない方、複数回答）



*2022年の「その他」の内訳：「ラジコンメーカー所属の契約ドライバーとのコラボレーション」「立体、手芸など」

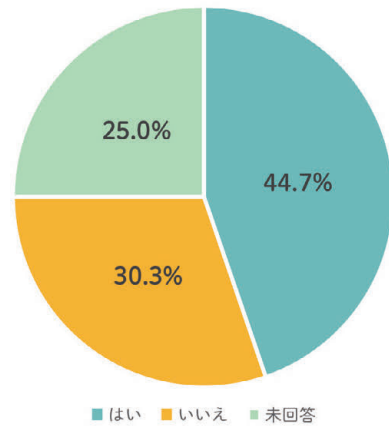
Q7-2 芸術文化活動において、現在の課題や必要としていることがあれば教えてください（現在芸術文化活動をしていない方、複数回答）



*2022年の「その他」の内訳：「興味を持っている利用者が少ない。芸術等に自信がなく活動を促してもイヤがる利用者も少なくない」

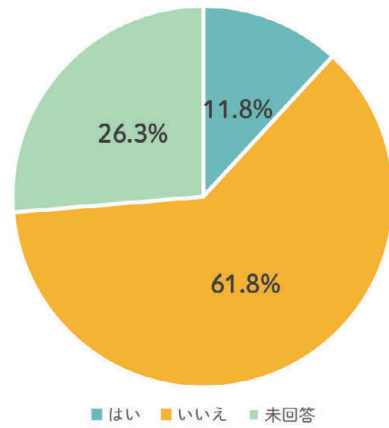
Q8

これまで、福島県障がい者芸術作品展「きになるひょうげん」展に応募したことはありますか？
*2022年に新たに追加した設問です。



Q9

これまで、はじまりの美術館が開催する研修会に参加したことはありますか？
*2022年に新たに追加した設問です。



Q10

はじまりの美術館に期待すること、相談したいことなどあれば記入してください（抜粋）

■現在芸術文化活動をしている事業所より

- 創作で収入を得る機会を期待します。
- 障がい者アート求人や、アート作品の二次商品の企画販売など、ヘラルポニーさんのような運営や人材紹介など、患者さんの自立の一助の活動を期待します。また、オンライン講座のアーカイブをホームページから直接リンクをするなど、もっとホームページコンテンツの充実を期待します。最後に「きになるひょうげん展」に賞金を設けて公募展企画のボトムアップを願います。
- 作家（利用者）と地域社会や美術館来館者との交流の場を対面、オンライン共に拡充していただきたい。
- どうすれば、最優秀な作品を描くことができますか？
- 床擦れのために遠い外出禁止。ユーチューブで拝見しています。色んな作品があって楽しいです。
- 現在取り組んでいるのは保育施設で行うような製作が中心であり、個々の特性を引き出し生かすようなものは行えていない。ここから一步脱却し、芸術文化活動として支援していくために、どのような知識、支援、環境等が必要か。芸術文化活動というハードルが高く感じてしまうが、少しでもそのエッセンスを取り入れていきたい、新たに取り組みたいと考える事業所向けの研修（できればオンライン）などがあるととても嬉しいです。
- 障がい者のアートでの表現活動を牽引してほしいと思っています。当方は、現在、就労支援がメインで純粋にアートを求める活動はしにくいのが現状です。
- 和太鼓のような無形芸術発表の場も設けて欲しい。
- 芸術活動において参考にさせて頂いています。
- 出張ワークショップしてくれるとありがたいです。
- 当センターでは11月に文化祭を開催しており、各事業所の利用者さまが作製した作品を展示、審査、表彰する行事があります。コロナ禍が落ち着いた際に出張美術館などの機会があれば、利用者さまの創作意欲につながる刺激になるのではと考えております。
- 以前相談させていただいたことがある著作権等について、時機を見てまた相談したいと思っています。
- 利用者の芸術における表現方法を支援できる人材が少なく残念です。サマーキャンプのような形態で本当の才能を見出すことができる機会を設けていただければ嬉しいです。
- 表現力、想像力は生活を豊かにしてくれる一つと考えます。表現できる場があることはとても素晴らしいことだと思います。
- 色彩感覚に優れている利用者さんもいますが、指導者とする方がいないので、指導してもらえればと考えています。
- 意外と普段の生活では気づかないきになる部分が、展示されることで、こんなこともあるのかと実際に見学に行ったことで、気づかされました。とても楽しいイベントだと思います。今後も継続していただければと思います。よろしく願いいたします。
- 障害のある方達の素晴らしい作品をもっと一般の方々に見て頂く機会があれば良いと思う。

長津さんコメント

今回の調査では、表現活動への関心が高まる一方で、実際に表現活動に取り組む事業所は増加していない傾向がわかりました。活動を実施している事業所ごとの活動頻度は上がっており、公募展に応募する事業所が増加したり、著作権等についての取り組みを行う事業所が増加するなどの変化が感じられます。

活動を行ううえでは、指導者の確保や支援方法、活動環境の充実などが課題となっているようです。また資金の確保についても2019年時点と比べると課題意識が広がっています。今後は、はじまりの美術館が主催する研修会や「きになるひょうげん」展をさらに周知するとともに、ここで挙がってきた課題にどのように応えていくかを検討していくことが求められるでしょう。

なおアンケートの回収率は必ずしも高いとは言えず、今後も継続的な実態調査を通じて、さらなる県内のニーズの把握が望まれます。

- はじまりの美術館の様々な取り組みいつも楽しみにしています。作品展等に利用者さんを連れて行ってみたいとは思っているのですが、猪苗代は遠く長時間移動が難しい人ばかりで叶いません。移動美術館できたらうれしいです。
- 毎回きになるひょうげんに応募させて頂き利用者さんと作品展に足を運ばせてもらってます。他の方の作品も個性的な作品が多く楽しませてもらっています。ポストカード等の商品も販売していたり、一般の方も見に来ていて使用者の方々が「ひょうげんできる場所」になっているんだなと感じてとても大切な場所だと思ってます。
- できあがった作品を荘内に展示しているだけでよいのか？多くの人に見ていただきたいと思う。又、作品に価値があってもそれを評価することができない。例えば商品化の方法など。
- 障がい者の主体的な創作活動（やらせでない いいもの）をどの様に発見、育てていくかの実践的な助言など。
- 毎年案内を頂きありがとうございます。活動の中で出品という目標を持って活動に取り組むことができました。今後ともよろしくお願いします。
- 身体の方も参加、体験できるアートイベント。
- 利用者さんたちが出品するのを楽しみにしています。ずっと続けていただきたいです。
- これからもきになるひょうげん展をぜひ続けていただければと思います。よろしくおねがいいたします。
- いつも作品展参加させていただきありがとうございます。子どもたちの作品をいつも素敵にセンス良く飾っていただき勉強になります。
- 活動のすすめ方や作品の保管方法。重度知的障がいの方へのアプローチ方法と職員がどうしたら、その方の行なっている行動や作品に対して芸術として目を向けられるか、気がつけるか、事例など教えていただきたいです。
- 猪苗代の美術館まで遠くて皆んなで見に行けないので郡山市内で展示してもらおうと有難いです。
- ゆったりとした時間の中で情操教育として児童、生徒の可能性（価値実現、追求）を引き出せるきっかけにしてあげたいです。喜びを体験させたいです。

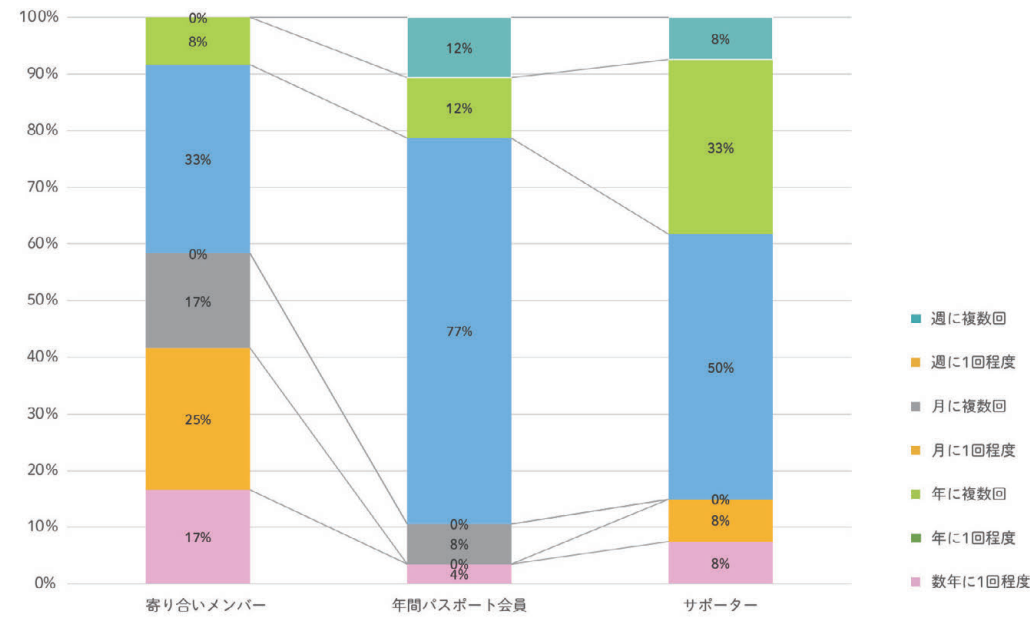
■現在芸術文化活動をしていない事業所より

- 県内企業などに作品の展示をどんどんやってほしい。毎回NHK福島のはまなかあひづなどでオンエアしてほしい。
- 私は北海道旭川市でホビー（ラジコンカー）から大きなアートプロジェクト・社会貢献に発展した障がい者がいるということを知り、ラジコンカーが大好きな私もこのようなことが出来たらいいなと知り、自分でペイントしたボディ・ラジコンカーレースに参加した作品を郡山市障がい者作品展、福島県障がい者芸術作品展「きになるひょうげん」に出展し今に至ります。…なので、団体に所属していない個人でも大好きなこと（ホビー）から大きなプロジェクトに発展・地域の社会貢献・世界進出できる支援ができるようになることを期待しています。
- 個人として美術館に行かせて頂きました。子供から大人まで、健常者から障がいがある方まで楽しく過ごすことができる施設だと思いました。残念ながら会社の活動はなかなか難しいですが、個人で作品を購入致しました（小物類）次に行った際、新しいものが購入できるか楽しみにしています。
- 今回、物販して頂きありがとうございます。自分の作った物が誰かの手に渡る事は、この上ない幸せや自信につながりました。またご縁がありましたら、よろしくお願いします。
- きになるひょうげん展、いつもありがとうございます。障がいのある方々が自信をもって作品を発表できる場があること、とてもすてきです。これからもずっと続くよう願っています。
- これからも、障害を持っている方のアート活動をたくさん発信してほしいです。私たちが一緒にできることは、少ないかもしれませんが、陰ながら応援しています。

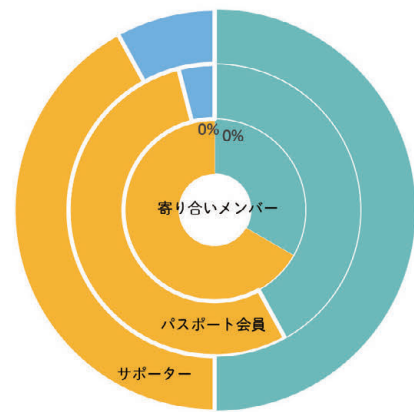
はじまりの美術館は、県内全域の障がいのある人の表現活動を支援する拠点であると同時に、地域住民の方々が集う拠点でもあります。そこで今回は、はじまりの美術館を利用、もしくは支援をしている方々を対象としたアンケート調査を行い、実態把握を試みました。この活動は、チェックリストの D1「地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できる場をつくるための活動」、D2「地域住民の障害者の芸術文化活動に関する関心を高めるための活動」の検証としても位置付けました。対面と web フォームを用い、以下の方々に回答いただきました。

- ① 「寄り合いメンバー」：12 名 ※寄り合い・・・はじまりの美術館開館前から実施している市民ワークショップ。
- ② 「はじまりの美術館年間パスポート」会員（以下、パスポート会員）：26 名（回答率 44.0%）
- ③ 「はじまりサポーター（以下、サポーター）」：12 名（回答率 44.4%）

Q1 はじまりの美術館への来館頻度を教えてください。

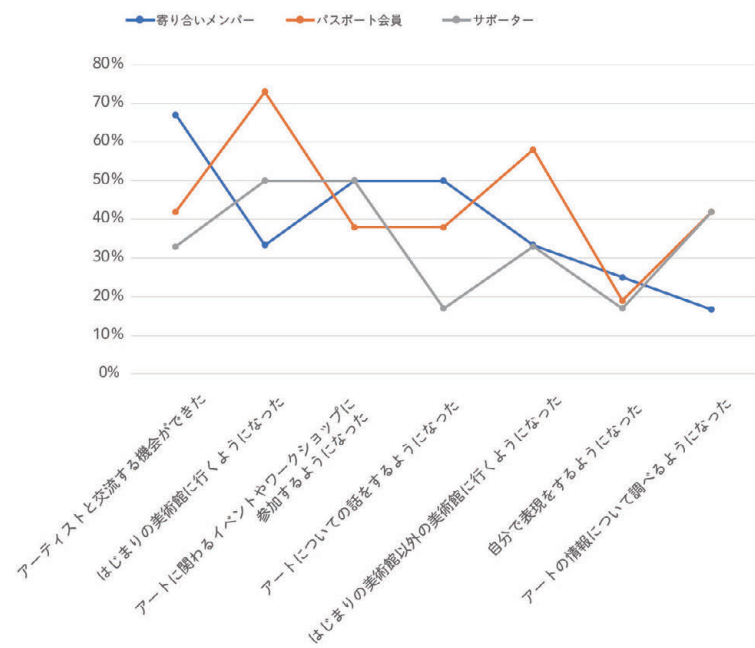


Q2-1 はじまりの美術館に通いはじめてから、アートへの関心の変化はありましたか？

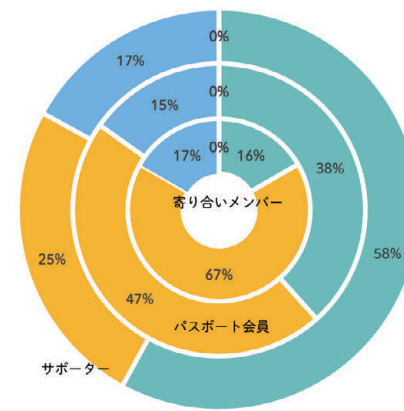


- アートへの関心がとても強くなった
- アートへの関心が強くなった
- アートへの関心に変化はない
- アートへの関心が弱くなった
- アートへの関心がとても弱くなった

Q2-2 (左記質問で変化があった場合) 具体的にどのような変化がありましたか？

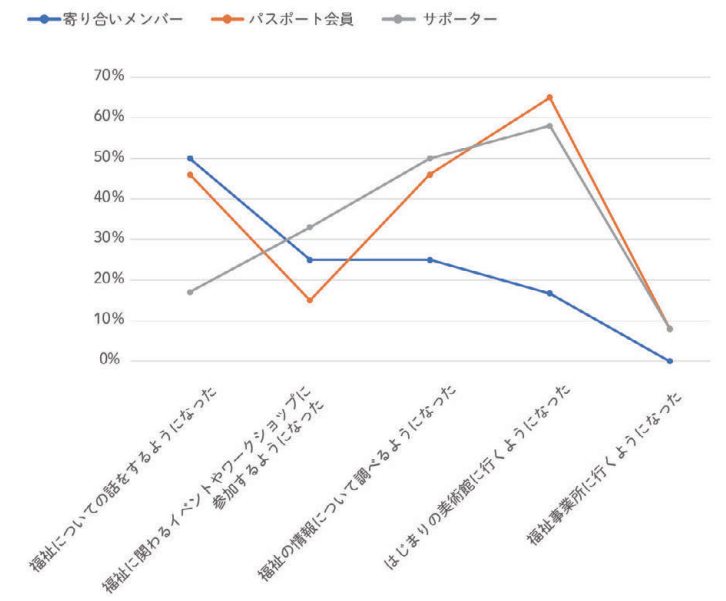


Q3-1 はじまりの美術館に通いはじめてから、福祉への関心の変化はありましたか？

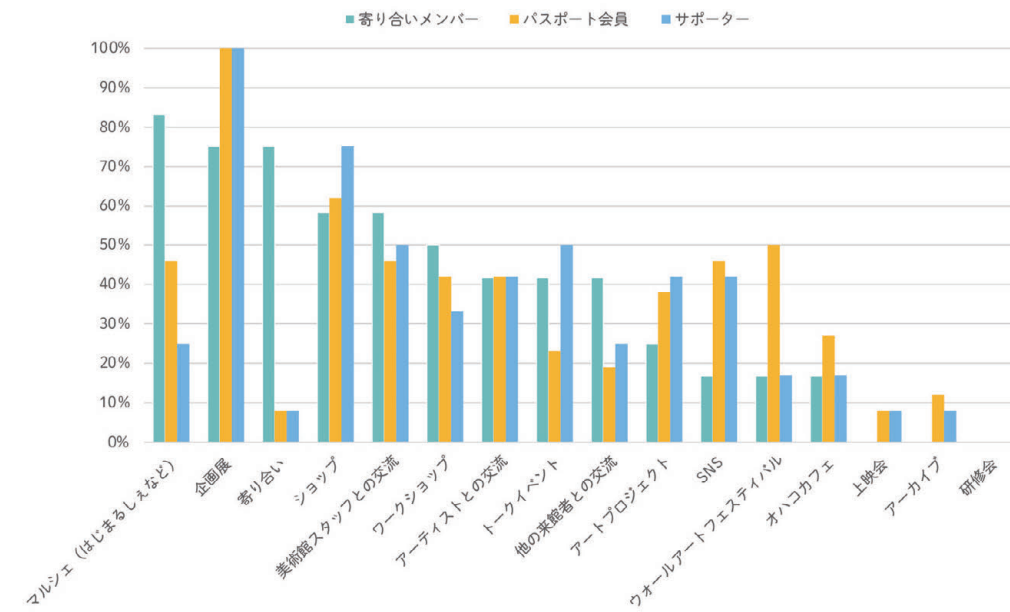


- 福祉への関心がとても強くなった
- 福祉への関心が強くなった
- 福祉への関心に変化はない
- 福祉への関心が弱くなった
- 福祉への関心がとても弱くなった

Q3-2 (左記質問で変化があった場合) 具体的にどのような変化がありましたか？



Q4 はじまりの美術館の印象に残っている取り組みを教えてください（複数回答可）



長津さんコメント

今回調査に取り組んだことで、はじまりの美術館を支援する人たちがどのような人たちなのかを理解する手がかりが得られました。主に猪苗代町に在住する「寄り合いメンバー」たちは、企画展だけでなく、マルシェイベントや寄り合い自体が強く印象に残っており、アーティストとの交流をするようになったりイベントに足を運ぶようになったほか、福祉の話を中心に周りにするようになったという変化がみられます。

一方、年に数回ほど美術館を訪れる「サポーター」や「パスポート会員」たちは、はじまりの美術館に出会うことでそれ以外の美術館にも足を運ぶようになったり、福祉の情報について調べるようになったという変化が見られました。

そして、はじまりの美術館にどの立場に関わっている方も、美術館の存在が、アートと福祉双方の関心を高めるきっかけとなることが、結果から推察されます。

「第 2.5 者評価」～はじまりの美術館の事業評価に携わって

長津結一郎（九州大学大学院芸術工学研究院准教授）

ここ数年、障害とアート、福祉とアートに関わるいくつかの団体の事業評価を一緒にすることがあります。数値で単純に測ることが難しい事業の価値をどのように「見える化」していくかというトピックは、専門家の間でも長く議論されてきているところです。その中で私は、「自分たちが大切にしたいと思うものが、きちんと大切にされているか？」という視点でいつも事業評価に関わっています。第三者によって格付けされたり批評されたりすることも必要な場面もありますが、何か一つの尺度で測るのが難しいような事業を評価するときには、自分たちで大切にしたいことを言語化していくことが、評価に取り組む第一歩と言えます。

そのときに私がやることは、評価を上から決めつけるのではなく、評価のプロセスに伴走するということになります。幸い、はじまりの美術館には開館前からご縁があり、展覧会やトークイベント、ワークショップなどでお手伝いしたこともあり、はじまりの美術館の成り立ちを比較的良く知る立場にありました。また一方、厚生労働省の障害者芸術文化活動普及支援事業についても、初心者向けハンドブックを作成したり、運営マニュアルの改訂に関わるなど、ある程度の知識を持っていました。そのような立場から今回は、時に客観的にコメントをしながら伴走していくことを試みました。

この立場は、自己評価でも、組織内部での評価でもなく、かといって第三者評価でもない、「第 2.5 者評価」とでもいいたいでしょうか。

具体的には、最初書いてあったような、はじまりの美術館が目指していることの言語化を試みました。いわば事業の「棚卸し」です。ここで多くの議論を行い、何のために事業を行っているのかを整理することができたのが、その後の事業評価に取り組むうえでの見取り図を示すことにつながったと思います。

また 3 月にははじまりの美術館の設置主体である社会福祉法人安積愛育園と、その法人が属するあさかホスピタルグループの職員のみなさんにもお会いし、はじまりの美術館がどのような存在であるかを検証するインタビューも実施しました。今回の報告書でその内容には触れていませんが、次年度以降の事業をより盤石に実施していくための貴重な情報を得ることができました。



あさかホスピタルグループ管理職へのヒアリング

評価は「サイクル」が大切だ、とよく言われます。評価をやることで見えてきたことを、次年度以降の事業の計画に活かしていくことが重要です。その意味では、今回の事業評価の取り組みはまだ始まったばかりですが、いくつかの課題が浮き彫りになったと思います。

例えば、チェックリストを用いた評価実践からは、相談支援や情報発信、地域住民との関係性構築は十分に行われているものの、県内の活動の実態把握や、具体的な支援方法や作品制作技術の啓発などには課題が残る形となりました。また、県内事業所へのアンケートを通じては、研修会や「きになるびょうげん展」の実施を通じて、どのように個々の事業所が感じている課題にアプローチしていくのかを問いかける必要があるのではないかと考えられました。こうした課題を次につなげていき、アートと福祉の両方を揺さぶる、はじまりの美術館ならではの方法で、今後もより良い事業が行われるよう、伴走を続けていきたいと思っています。



長津結一郎（ながつ・ゆういちろう）




はじまりの美術館での打ち合わせ



社会福祉法人安積愛育園管理職へのヒアリング

九州大学大学院芸術工学研究院准教授。多様な関係性が生まれる芸術の場に伴走／伴奏する研究者。専門はアート・マネジメント、文化政策。障害のある人などの多様な背景を持つ人々の表現活動に着目した研究を行っているほか、音楽実技やワークショップに関する教育、演劇・ダンス分野のマネジメントやプロデュースにも関わる。2013年東京藝術大学大学院博士後期課程修了。博士（学術・東京藝術大学）。2016年4月に九州大学に着任、2022年6月より現職。著書に『舞台の上の障害者：境界から生まれる表現』（九州大学出版会、2018年）など。障害のある人の表現活動に関連する文化庁・厚生労働省の複数の委員を歴任。九州大学大学院芸術工学研究院附属社会包摂デザイン・イニシアティブ ソーシャルアートラボ長、アートミーツケア学会共同代表、日本文化政策学会理事、文化経済学会<日本>理事、日本アートマネジメント学会運営委員。

福島県障がい者芸術文化活動支援センター

 はじまりの美術館

2022 年度報告書

編集 はじまりの美術館（岡部兼芳、小林竜也、大政愛）、佐藤恵美
編集補助 はじまりの美術館（青木早知子、中野美奈子）
執筆 長津結一郎（p.32～43）
写真 はじまりの美術館、白土亮次（p.16、17、19）
イラスト ふるやまなつみ
デザイン 藤城光
発行 社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館
〒969-3122 福島県耶麻郡猪苗代町新町 4873
TEL. 0242-62-3454

2023 年 3 月 31 日発行

©2023 HAJIMARI ART CENTER All Rights Reserved. 無断転載複写禁止

\ ご相談はこちらまで /

はじまりの美術館 相談窓口

TEL 0242-62-3454

FAX 0242-23-8185

Mail soudan@hajimari-ac.com

- ・対応可能な時間は 10:00～18:00 です。
- ・休館日の火曜日、展示入れ替え期間中は相談対応をお休みしています。
- ・相談は無料です。
- ・担当者不在の場合など、メール等のお返事に 1 週間程度お時間をいただく場合がございます。あらかじめご了承ください。
- ・直接はじまりの美術館にご来館いただいての相談も可能です。担当者が不在の場合がございます。必ず事前にご予約をお願いいたします。